

2025年度事業報告の件

はじめに

2025年の社会情勢を振り返ると2025年1月トランプ米大統領が就任以降さまざまな分野において世界に大きな影響を及ぼしたことが上げられます。特にトランプ関税の影響により株価が乱高下し、世界経済に大きな混乱を及ぼしました。

日本の経済情勢を見ると、トランプ関税の影響により、日経平均株価が3月26日から4月7日までのわずか12日間で18%も下落するなど非常に不安定な状態が続き、先行きが、まったく予想がつかない事態が長く続きました。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻が終息しないまま現在にまで至っており、更には、イスラエルがイランへの攻撃を仕掛け全面戦争に発展するような様相となった以降、ようやく停戦合意となったにも拘わらず攻撃が止まず、中東情勢は極めて不安定な状況にあり、依然として世界情勢が混沌とする中、政情不安な状況が続いています。また、グローバルのインフレ加速に伴う各国の金融政策の引き締めが続いている中、日本では極端な円安と原材料やエネルギー価格の高騰が相まって、賃上げ以上の物価高を招き、市民生活を直撃しています。このため、貧困と格差が更に拡大し、包摂的社会とはほど遠い地域社会の疲弊が一層進行しています。

春闘においては、平均賃上げ率は、5.46%と前年をやや上回り、2年連続で5%台の伸びとなりました。しかしながら、実質的には物価上昇に可処分所得が追い付いておらず、先に触れた通り、景気回復には至っていない状況です。

雇用状況を見ると、2025年3月の完全失業率は2.4%で失業者数は、168万人となっています。有効求人倍率1.24倍、新規求人倍率は2.3倍となっています。また雇用者数は、6152万人で前年同月に比べ、64万人の増加となりました。コロナ禍以降、経済活動正常化の進展に伴って緩やかに改善してきています。ただし、転職活動や労働参加の活発化によって失業率が増加する可能性もあると言えます。また、人手不足の深刻化を受けて有効求人倍率は緩やかに上昇することが考えられます。一方、外需縮小などの影響による製造業を中心とした雇用環境の悪化も予想されます。その事からもまだまだ雇用の急速な改善は見込みにくいと言えます。

こうした情勢の中、千葉県労福協は、2025年度事業計画にしたがって年間の活動を進めて参りました。活動を振り返りますと「今後の労働者福祉運動のあり方」の方針に基づき、この間の運動を検証しながら「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」を目指し、労働者福祉向上の運動、労働者自主福祉運動と協同組合運動の推進、組織の強化、さらに格差・貧困問題等の社会的課題等に対してNPO法人や市民団体と協働で取り組みを行ってきました。

労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進では、構成団体代表者会議や構成団体事業推進実務者会議を開催し、共通認識を醸成するとともに具体的取り組み等の意見交換を行い、「労働団体への運動方針化要請」や「労働者自主福祉運動シンポジウム」を開催しました。「労働者自主福祉運動シンポジウム」については、今年度も昨年同様に対面開催とZoomでのライブ配信を併用した、いわゆるハイブリッド方式を取り入れ、より多くの方々に参加してもらえよう工夫をしながら取り組みを行いました。オンラインを活用した開催方法は、多くの方々に発信していく一つの有効的な手段と考えており、今後も様々な取り組みにおいて積極的に活用したいと考えています。一方、千葉県生協連と福祉団体との連携による「協同組合フェスティバル」は、昨年から名称を「協同組合フェア」と変更し、開催場所や開催方法等について全面的にリニューアルをして新たなスタイルで再開をしました。開催場所が限られたスペースであ

る事から、以前のような構成団体と共に直接的な参加をすることが難しいことから、今年度は見送ることとしましたが、今後は新たな連携方法を図りながら積極的に協力をしていきたいと思えます。

地区労福協との連携では、地区労福協代表者会議を3回開催し、各地区の取り組みや課題、さらに県労福協の取り組み等の共通認識の醸成をはかるとともに、労働者自主福祉運動の方針化や、奨学金制度改善の取り組み、福祉強化キャンペーン等に協力を頂き連携を図り取り組みました。

文化・体育活動では、第39回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会が開催され、18組68名の方に参加をいただきました。また、第20回千葉県勤労者ボウリング大会についても、9チーム36名の参加をいただきました。参加募集面や運営面で、構成団体、地区労福協の協力を得て取り組みました。

教育・宣伝活動では、「第10回労働者福祉セミナー」を(株)ラポール企画の大小原氏より今年度もオンラインを活用した方法にて、「事例で学び!ゲートキーパー養成講座」というテーマにて開催をしました。オンラインを活用したセミナーについては、今回で7回目となり、回を重ねるごとに定着化してきました。グループワークにおいても活発な話し合いが行われ、参加者からは「非常に良かった」「参加しやすかった」等の意見を頂きました。

「労働組合のための税務研修会」については、労働組合等の会計税務に係る実務マニュアルが昨年改定されたことから、そのテキストに基づいて今年度も千葉県労福協の顧問税理士である峠税理士より研修を行っていただきました。

更には「中央労福協全国研究集会」が、今年度は富山県富山市にて開催されました。今年度も実開催と併用してYouTubeでLIVE配信を行うハイブリッド方式にて開催されましたが、今年は残念ながら現地参加は出来ませんでした。また、「東部ブロック福祉リーダー塾」については、例年通り、静岡県三島市にある東レ総合研修センターにて開催され、千葉からは、塾生として昨年度と同様に男女2名ずつ合計4名の方に参加をいただきました。

「ちばライフサポートセンター事業」においては、昨年同様に労福協の事務局にて相談対応しながら今年度も活動を進めて参りました。相談業務は定着してきましたが、相変わらずリピーターの相談は多いものの、新規の相談が少ない状況となっています。この事については、今後の課題として捉えていきたいと考えています。

「野田市生活困窮者自立支援事業」については、従来通り野田パーソナルサポート共同企業体として、野田市パーソナルサポートセンターが「自立支援事業」「家計改善支援事業」、NPO法人 Earth as Mother 千葉が「就労準備事業及び被保護者就労準備事業」として業務分担をし、相談支援員は、相談者の気持ちにしっかりと寄り添いながら全力で相談業務に対応してきました。

その他、労働者福祉向上のための運動、貧困・格差問題等の社会的課題への取り組みなど、会員団体のご協力を得て取り組みを進めてきました。特に社会的課題においては、NPO法人・市民団体とも連携を強化し、取り組みを進めました。

この一年のご協力に感謝申し上げます、以下具体的な取り組みについて報告いたします。

I. 労働者福祉に関する事業

1. 理事会及び専門委員会の開催

(1) 理事会の開催

第90回理事会 2025年5月23日(金) 理事12名 監事2名 オブザーバー2名 事務局1名

①「いのちの電話」評議員の派遣について

②第12回定時総会関係について

第91回理事会 2025年6月24日(火) 理事11名 監事3名

①各種会議の構成員及び開催日について

- ②年間主要活動について
- ③「2025臨時総会」開催について
- ④「NPO法人地域創造ネットワークちば」の解散に伴う脱退について
- ⑤「千葉県多重債務対策本部」構成員の変更について

第92回理事会 2025年8月19日（火）理事10名 監事2名 事務局1名

- ①副会長の選任について
- ②各種会議の開催日及び年間主要活動の具体化について
- ③2025年度「労働者自主福祉運動シンポジウム」の実施について
- ④「第39回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会」の開催について
- ⑤「2025全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて
- ⑥千葉県への政策制度要請について
- ⑦千葉県協同組合フェアへの対応について

第93回理事会 2025年10月17日（金）理事12名 監事2名 オブザーバー1名 事務局1名

- ①監事の退任について
- ②各種会議等の開催日について
- ③千葉県への政策制度要請について
- ④2025年度「労働組合のための税務研修会」の開催について
- ⑤第20回千葉県勤労者ボウリング大会について
- ⑥JPA難病・長期慢性疾患・小児慢性特定疾病対策の総合的な推進を求める国への請願署名の取り組みについて

第94回理事会 2025年12月18日（木）理事12名 監事1名 オブザーバー1名 事務局1名

- ①各種会議等の開催日について
- ②第13回定時総会の日時と会場について
- ③千葉県勤労者チャリティゴルフ大会のチャリティ金の寄贈先について(案)
- ④「教育フォーラムちば2026」の後援について

第95回理事会 2026年 2月20日(金) 理事9名 監事2名 オブザーバー1名 事務局1名

- ①各種会議等の開催日について
- ②第13回定時総会関係について
- ③千葉県からの補助金に関わる補正予算申請(請求額の変更)について
- ④野田市PSC職員への期末手当の支給について
- ⑤第97回千葉県中央メーデーについて
- その他事項

コープみらい社会活動財団の奨学金給付事業について

第96回理事会 2026年3月23日（月）理事8名 監事2名 オブザーバー2名 事務局1名

- ①第13回定時総会関係について
- ②2026年度役員報酬等について
- ③職員の2026年度賃金昇給および一時金について
- ④パート職員の雇用について
- ⑤野田市生活困窮者自立支援事業への対応について
- ⑥野田市PSCの実施体制と職員の継続雇用について
- ⑦東部ブロック協議会「第17期福祉リーダー塾」について
- ⑧中央労福協「2026年度全国研究集会in MIYAGI」への参加について
- ⑨連合千葉「2026政策学習会」の対応について

第97回理事会 2026年4月20日（月）理事9名 監事1名 オブザーバー2名 事務局1名

- ①第13回定時総会関係について
- ②2026年度年間活動計画について

(2) 三役会の開催

第1回三役会 2025年6月3日(火)

I. 理事会協議事項

- ① 各種会議の構成員及び開催日について
- ～ ②年間主要活動について

II. 三役協議事項

第2回三役会 2025年8月1日(金)

I. 理事会協議事項

- ① 副会長の選任について
- ～ ⑤千葉県への政策制度要請について

II. 三役協議事項

第3回三役会 2025年10月3日(金)

I. 理事会協議事項

- ① 監事の退任について
- ～ ⑥JPA難病・長期慢性疾患・小児慢性特定疾病対策の総合的な推進を求める国への請願署名の取り組みについて

II. 三役協議事項

第4回三役会 2025年12月9日(火)

I. 理事会協議事項

- ① 各種会議等の開催日について
- ～②第13回定時総会の日時と会場について

II. 三役協議事項

第5回三役会 2026年2月5日(木)

I. 理事会協議事項

- ①各種会議等の開催日について
- ～⑤コープみらい社会活動財団の奨学金給付事業について

II. 三役協議事項

第6回三役会 2026年3月6日(金)

I. 理事会協議事項

- ①第13回定時総会関係について
- ～⑥中央労福協「2026年度全国研究集会in MIYAGI」への参加について

II. 三役協議事項

第7回三役会 2026年4月7日(火)

I. 理事会協議事項

- ①第13回定時総会関係について

II. 三役協議事項

2. 労働者福祉推進に関する事業

(1) 中央・東部ブロック・地方労福協との連携

中央労福協、東部ブロック協議会に参加し、各地方労福協と一緒に活動を推進するとともに、各種会議、研究集会、連絡会議に積極的に参加し、県段階の運動に活かす活動を展開してきました。

【中央労福協】

◎2025年度全国研究集会in TOYAMA 2025年6月6日(金)

富山県富山市芸術文化ホール オーバードホール大ホール YouTube Live配信併用

◎第4回地方労福協会議 2025年7月2日(水) Web開催

- ◎2025年度地方労福協事務担当者研修会 2025年7月10日(木)～11日(金)
10日(木)兵庫県神戸市 ラッセホール
11日(金)兵庫県淡路市 北淡震災記念公園野島断層保存館
- ◎第5回地方労福協会議 2025年9月25日(木) Web開催
- ◎第14回LSC実務者・相談員交流会 2025年10月9日(木)
連合会館2階203会議室およびWeb併用 Hybrid開催
- ◎第8回シンポジウム「女性のひろば」 2025年11月6日(木) 九段会館テラス 302
- ◎第67回定期総会 2025年11月21日(金) アートホテル日暮里ラングウッド
- ◎2025年度生活困窮者自立支援事業に携わる相談支援員オンライン交流会
2025年12月8日(月) Web開催
- ◎第1回地方労福協会議 2025年2月18日(水) 日本教育会館

【労福協東部ブロック協議会】

- ◎第247回幹事会・事業団体責任者会議 2025年7月8日(火) 千葉県千葉市
オークラ千葉ホテル
- ◎ライブポート事業経験交流会 2025年9月3日(水) 長野県長野市 犀北館ホテル
- ◎第248回幹事会・代表者会議・OB会 2025年10月14日(火) 静岡県三島市
三島商工会議所
- ◎第249回幹事会 2025年12月3日(水) 群馬県高崎市 ホテルメトロポリタン高崎
- ◎第60回定期総会・記念講演
2025年12月3日(水) 群馬県高崎市 ホテルメトロポリタン高崎
 - ① 第60回定期総会
 - ② 記念講演「労福協会員との協働に期待すること」
講師 川原 武男氏(群馬県社会福祉協議会 顧問)
- 2025年12月4日(木)～5日(金) 群馬県内
 - ③ 役職員研修会
- ◎第250回幹事会 2026年3月16日(月) 栃木県宇都宮市

《東部ブロック福祉リーダー塾》

- ◎第16期 2025年6月12日(木)～13日(金) 静岡県三島市 東レ総合研修センター

(2) 地区労福協の強化・育成・支援に関する事業

<第1回地区労福協代表者会議>

2025年7月25日(金) こくみん共済coop千葉推進本部会館

<活動報告>

1. 5月～6月の活動報告並びに各種会議報告

<議題>

I. 千葉県労福協組織運営並びに年間主要活動計画

1. 諸会議構成

2. 年間主要活動について

- ① 広報誌「しあわせ」発行 ② 労働者福祉セミナー ③ 政策制度要請 ④ 第39回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会 ⑤ 全国福祉強化キャンペーン ⑥ 労働者自主福祉運動シンポジウム ⑦ 税務研修会 ⑧ 第20回千葉県勤労者ボウリング大会

3. 地区労福協と千葉県労福協並びに構成団体との連携

4. 労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進と事業団体の利用促進

5. 「2025全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて

6. その他 ① 連絡先一覧について

- II. 地区労福協活動報告
- III. 意見交換
- IV. 2025年度地区労福協運営助成金について
- V. 連絡事項
 - 1. 講演会・セミナー等の費用補助制度の活用について
 - 2. その他

<第2回地区労福協代表者会議> 2025年10月31日（金）web開催

- I. 千葉県労福協活動報告
 - 1. 諸会議・諸活動等
 - 2. 中央労福協・東部ブロック協議会関係
 - 3. NPO等加盟団体関係
- II. 協力要請事項
 - 1. 「2025全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて
 - 2. 2025年度「労働者自主福祉運動シンポジウム」の実施について
 - 3. 2025年度「労働組合のための税務研修会」の開催について
 - 4. 「第20回千葉県勤労者ボウリング大会」の開催について
 - 5. その他
- III. 地区労福協活動報告
- IV. 2025年度地区労福協運営助成金について(再確認事項)
- V. 講演会・セミナー等の費用補助制度の活用について(再確認事項)
- VI. 今後の主な予定
- VII. その他

<第3回地区労福協代表者会議> 2026年2月27日（金）web開催

- I. 千葉県労福協報告
 - 1. 諸会議・諸活動等
 - 2. 中央労福協・東部ブロック協議会関係
 - 3. NPO等加盟団体関係
- II. 協力要請事項
 - 1. 千葉県労福協第13回定時総会への対応について(案)
 - 2. 第17期労福協東部ブロック福祉リーダー塾参加について
 - 3. その他
- III. 地区労福協活動報告
- IV. 意見交換事項
 - 1. 千葉県労福協2026年度事業計画（案）策定に対する意見・要望について
 - 2. 労働者自主福祉運動・事業の推進について
 - 3. 次年度の地区労福協代表者会議について
 - 4. その他
 - (1)「地区労福協代表者連絡先組織一覧」について
- V. 連絡事項

地区労福協代表者会議は、年間計画通り年3回の開催をすることが出来ました。代表者会議において「全国福祉強化キャンペーン」「千葉県労福協の各種活動」への協力要請や千葉県労福協と地区労福協との意見交換等を行ってきました。

○各地区労福協の主な活動報告は、【資料1】参照。

(3) 構成団体との連携による労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進

① 構成団体代表者会議

第1回 2025年8月1日（金）

② 構成団体事業推進実務者会議

第1回 2025年9月2日（火）Web開催

出席者 連合千葉：中島事務局長

中央労金千葉県本部：重本都県統括部長

こくみん共済 coop千葉推進本部：石井事務局長

労福協：永富会長、宮崎常務理事、岩上事務局長

- 内 容
1. 労働者自主福祉運動の推進取組報告（経過報告）
 2. 課題と今後の取り組みについて（次年度事業計画への反映）
 3. 意見交換・構成団体からの意見要望
 4. 2025全国福祉強化キャンペーンについて
 5. その他

③ 労働者自主福祉運動シンポジウム

日時・場所 2025年11月29日（土）13:00～16:00 オークラ千葉ホテル(千葉市)

参加者 63名(オンラインでの参加者8名含む)

主催 千葉県労福協

共催 連合千葉、中央労金労組千葉統括支部

全労済労組関東支部千葉分会

中央労働金庫千葉県本部、こくみん共済 coop千葉推進本部

内 容 講演「競争か連帯か～労働者自主福祉事業(労金・全労済)の成り立ちとこれから」

労働運動の歴史を振り返りながら

講師：中央労福協講師団講師 高橋 均 氏

事業団体からの提起

「<中央ろうきん>の生活支援取組みについて」

中央労働金庫千葉支店 渉外担当 森永 優太 氏

事業団体からの提起

「もしもセミナー：マイカー共済篇」

～運転のリスクを知って「もしも」への備えを～

こくみん共済 coop千葉推進本部

事業推進課 課長 斉田 朋之 氏

④ 国際協同年2025記念 千葉県協同組合提携推進協議会マッチデー「ジェフユナイテッド市原・千葉冠試合」

日時・場所 2025年11月9日（日）フクダ電子アリーナ

⑤ 協同組合の社会的認知度の向上、理解促進の取り組み

・ 広報誌（しあわせ）による事業・活動紹介

・ 中央労福協や労金、こくみん共済 coop作成教材・DVDの紹介及び貸出

⑥ 構成団体の取り組み

構成団体の取り組み報告については、「Ⅲ. その他事業」の後に記載しましたのでご参照願います。

(4) 貧困・格差問題及び福祉強化の取り組み

2025全国福祉強化キャンペーン

実施期間 2025年10月～11月【千葉県労福協】2025年10月～12月

全国共通テーマ

- ・地域に一步踏み出そう！

I 取り組みメニュー

1. メインメニュー

- ①協同組合やNPO・市民団体など、多様な団体との連携強化
- ②食の支援活動の新たな展開
- ③子供の居場所づくり
- ④自治体要請行動

【千葉県労福協の取り組み】

- ・協同組合やNPO・市民団体など、多様な団体との連携強化
- ・自治体要請行動

2. チャレンジメニュー

チャレンジメニューの参考資料を参考として、各地方組織で1課題以上を設定する。

【千葉県労福協の取り組み】

- ・会議や研修をweb開催・Hybrid開催とし、すそ野を広げる
- ・労福協の認知度向上のためのマスコットキャラクターの有効活用などの広告宣伝等を行なう。

3. 労働者福祉に係る調査研究に関する事業

(1) 社会保険制度の調査研究

現行社会保険制度の要点を作成して、県内の労働組合等へ配布しました。昨年より郵送料等の大幅な値上げ等から、配布先や配布枚数等について大幅に見直しを行い県内の労働組合等へ配布させていただきましたが、大きな混乱もなかったことや、経費節減につながったことを踏まえ、2025年度においても更に見直しを図りながら配布をし、制度概要の周知を図りました。

4. スポーツ・文化活動に関する事業

多くの団体から協賛・後援を頂きながら下記の各種活動を開催しました。

(1) 第39回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会

日時・場所 2025年10月27日(月) 真名カントリークラブ

参加者 18組68名

成績 個人の部(新ペリア方式)

優勝:山内 剛氏[77]

準優勝:福田 将史氏[80]

3位:梅澤 雄志氏[84]

ベストスコア賞:深山 和利氏[75]

団体の部

優勝:市原市役所B

準優勝:外房地協

3 位:小川チーム

ニアピン:鶴島 規晃氏 (つつじ4)
 山川 大輔氏 (つつじ6)、
 清水 康平氏 (くすのき4)
 福田 将史氏 (くすのき7)
 梅澤 雄志氏 (こぶし3)
 佐藤 裕仙氏 (こぶし8)
ドラゴン:鈴木 明氏 (つつじ8)
 福田 将史氏 (くすのき8)
 中根 信也氏 (こぶし4)

今回も労働組合・福祉団体等から多くの賞品をご提供いただき、盛況裡に開催することが出来ました。また参加した皆様より122,000円のチャリティ金へのご協力を頂きました。更には、今年より新たな取組みとして、「フードバンクちば」への食品提供を呼びかけたところ、参加者より82個の食品提供をしていただきました。心より感謝を申し上げます。

尚、チャリティ金の寄贈先について理事会にて協議した結果、今年度は日本赤十字「令和7年台風第22号・23号災害義援金」へ全額寄贈させて頂きました。

(2) 第20回千葉県勤労者ボウリング大会

日時・場所 2026年2月7日(土) VEGAアサヒボウリングセンター

参加者 9チーム36名(地区代表、構成団体)

成績 個人の部(2ゲームトータル)

優勝:高根 愛海氏 [491]

準優勝:高井 勇喜氏 [382]

3 位:宮川 雅晃氏 [372]

団体の部(2ゲームトータル)

優勝:千葉市地区労福協(JFE労組) [1350]

宇佐美 晶浩氏・加瀬 慎太郎氏・宮川 雅晃氏・加瀬 愛氏

準優勝:茂原市役所職員組合 [1336]

高井 勇喜氏・鶴岡 誉之氏・山田 穂波氏・露崎 瑠氏

3 位:千葉市地区労福協(JFE労組) [1304]

関橋 浩氏・岩澤 心和氏・塚本 稔氏・高根 愛海氏

5. 教育・宣伝に関する事業

(1) 労福協広報誌「しあわせ」3回発行(540号・541号・542号)

一昨年から、郵送料等の大幅な値上げにより、配布先や配布部数の大幅な見直しを図りました。また、書面についてもカラー印刷を基本として、より見やすくなるよう改善を図りました。内容については、今までと同様に、千葉県労福協の活動、構成団体の「連合千葉」「中央労金千葉県本部」「こくみん共済coop千葉推進本部」「千葉県生協連」の事業・活動報告や紹介、各地区労福協の総会や活動の掲載、中央労福協、東部ブロック協議会の活動報告、さらにNPO法人等の連携団体の活動紹介についても掲載してきました。

〇1年間の「しあわせ」記事内容については【資料2】参照。

(2) インターネット・ホームページ等の充実・活用

中央労福協との連携により中央のホームページとリンクするとともに、千葉県労福協の定時総会議案や活動はじめ、広報誌「しあわせ」にも掲載し、誰でも閲覧出来るようにしています。また、一昨年度よりホームページを全面リニューアルし、より見やすい画面へ一新致しました。併せて一昨年度よりFacebookを開始し、ホームページとリンクさせ、アクセスしやすいように改善を図りました。

(3) 第10回 労働者福祉セミナー

オンラインを活用したセミナーを始めて今年で5年目を迎え、オンラインを活用し、グループワークを中心としたセミナーの方法も定着してきました。今年は15名の方にご参加いただき、事例で学び「ゲートキーパー養成講座」というテーマで、毎年お世話になっている日本ゲートキーパー協会の大小原氏に約2時間にわたり講演を行って頂きました。セミナーの中で実施したグループワークにおいては、各参加者の皆さんが真剣に、しかも楽しみながら討議をしていた姿が非常に印象的でした。参加者からは、昨年度同様に「大変楽しく、しかも勉強になった」「初めての参加だったが、オンラインでのセミナーであったことから気軽に参加できて非常に良かった」「セミナーに参加して、様々な気づきがあった」等の感想を頂きました。

今後も引き続き、中央労福協の方針に基づいて、オンラインを活用した方法について積極的に取り入れていきたいと思っております。

(4) 2025年度労働組合のための税務研修会

日時・場所 2025年12月11日（木）14:00～16:30 千葉県教育会館本館604会議室

参加者 15名

講師 峠 修治 税理士

内容 ①労働組合の会計・税務について
②その他

6. 行政・自治体等との連携に関する事業

(1) 審議会・委員会への派遣

千葉県の各種審議会・委員会へ委員を派遣し、県政に勤労者の意見・要望を反映させました。また、千葉県社会福祉協議会等の委員会にも委員を派遣してきました。

千葉県医療審議会委員	永 富 博 之
健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員	永 富 博 之
千葉県消費者行政審議会 委員	尼 崎 英 之
千葉県多重債務対策本部 構成メンバー	重 本 拓 也 宮 崎 弘 志
千葉県自殺対策連絡会議 構成員	宮 崎 弘 志
千葉県公衆浴場料金等協議会 委員	永 富 博 之
(一社)千葉県地方自治研究センター 監事	宮 崎 弘 志
千葉県ボランティア・市民活動センター 運営委員	永 富 博 之
千葉県共同募金会配分委員会 委員	永 富 博 之
社会保険診療報酬支払基金千葉審査運営協議会 委員	岩 上 美 佐 子
社会福祉法人 千葉いのちの電話 評議員	宮 崎 弘 志

(2) 対県要請について

今年度の対県要請は、2025年11月19日（水）県庁内で、千葉県労福協からは、永富会長、宮崎常務理事、千葉県からは、雇用労働課 重藤課長、田沼副課長、篠原班長、東主事が出席して、永富会長より重藤課長に「令和8年度労働者の生活安定に関する要請書」を手渡し、その後、永富会長の総括挨拶と宮崎常務理事より要請内容のポイント説明がされ、意見交換を行いました。

「令和8年度労働者の生活安定に関する要請書」に対する回答は、2026年3月31日（火）に出されましたが、理事会で回答の扱いを確認し、それぞれの団体に精査することとしました。

○「令和8年度労働者の生活安定に関する要請書」の要請内容及び回答は【資料3】参照。

II. 生活支援に関する事業

1. 暮らし何でも相談事業「ちばライフサポートセンター」事業について

(1) 「ちばライフサポートセンター」事業について、2022年10月より、財政等の問題から労福協の事務局にて週1回水曜日を相談日（相談時間10時～15時）とし、電話相談のみで対応しています。この新しい形での相談業務がスタートして3年が経過をし、相談活動が定着してきたところです。今年も運営委員会にて特徴的な相談の事例報告をし、対応策や情宣方法について協議をしながら方向性を確認し、年間の活動を進めて参りました。

相談は、昨年同様に「一人暮らしで寂しいため、話し相手になってもらいたい」という理由で、一日何回も電話をかけてくるというケースが多く、本来の趣旨から逸脱している内容も少なくないことから、対応に苦慮してきました。この問題は他の地方労福協においても同様なケースも多く報告されていますが、なかなか得策がなく他地方労福協も苦慮しているとの報告がされています。やはり本来の目的にあるように、勤労者の方を中心に、より多くの人たちに活用して頂くために、次年度以降においても、引き続き様々な情宣方法等を考えながら、より多くの人たちに利用して貰えるよう努力していくことが必要であると思えます。

(2) ちばライフサポートセンター運営委員会

ちばライフサポートセンター運営委員会にて、相談等の内容を報告し、様々な問題点や活動についてしっかりと総括をするとともに、次年度の活動内容について協議をしてきました。

◎第1回ちばライフサポートセンター運営委員会

2025年9月2日（火）web会議

出席者 連合千葉：中島事務局長

中央労金千葉県本部：重本都県統括部長

こくみん共済 coop千葉推進本部：石井事務局長

労福協：永富会長、宮崎常務理事、岩上事務局長

内 容 I. 今年度のちばライフサポートセンター事業について

(1) 現行実施している相談体制について

(2) 現在までの相談状況について

(3) 情宣活動について

(4) その他

II. 意見交換

○1年間の実施状況については【資料4】のとおりです。

(3) 野田市パーソナルサポートセンター事業の取り組み支援

千葉県労福協は、中央労福協方針を受け止め、野田市パーソナル・サポート・サービス・モデル事業の連絡会に参加し、その後、2014年7月から野田市生活困窮者自立促進支援モデル事業、2015年度の生活困窮者支援制度本格実施以降は、毎年度、生活困窮者自立支援事業を受託し取り組んできました。

2019年度に、法改正による野田市の意向を踏まえ、千葉県労福協がNPO法人 Earth as Mother 千葉とともに野田パーソナルサポート共同企業体を設立し、自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業の三事業を一括受託し、その内、千葉県労福協は、自立相談支援事業と、家計改善支援事業の2事業を受け持って、共同企業体間の更なる連携と円滑な運営・協力体制を構築し、事業を進めてきました。

更には、2021年4月より現在までの事業内容をベースとして、新たに国が進める改正福祉法に基づく重層的支援体制の構築を図るため、「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」を開始する事となり、2021年度からは「野田市生活困窮者自立支援事業及び被保護者就労準備事業」と「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」について、業務分担としてはNPO法人 Earth as Mother 千葉に担ってもらう形で受託することとなりました。

とりわけ、「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」の業務を担うNPO法人 Earth as Mother 千葉を中心に共同企業体である野田市パーソナルサポートセンター、そして野田市と情報共有しながら本格運用を目指し準備を進めてきましたが、様々な要因から最終的に「重層的支援体制事業への移行準備事業」については、野田パーソナルサポート共同企業体としてではなく、NPO法人 Earth as Mother 千葉が単独で受託をする事となりました。したがって今年度も以下の記載した業務分担で活動を行って来ました。

令和7年度 野田市との委託契約

構成団体	業務分担
野田パーソナルサポート共同企業体	(一社) 千葉県労働者福祉協議会 ・自立相談支援事業 ・家計改善支援事業 NPO法人 Earth as Mother 千葉 ・就労準備支援事業及び被保護者就労準備事業

○1年間の実施状況については、【資料5】のとおりです。

2. NPO法人、ボランティア等に関する取り組み

(1) NPO組織等との連帯・連携の取り組み

① NPO法人「地域創造ネットワークちば」

2025年5月27日付にて組織が解散となりました。これまでの活動に対し敬意を表するとともに、理事を選出いただく中で、労福協運動にご尽力いただきました事に心より感謝申し上げます。

② 「協同労働の協同組合ネットワークちば」

「協同労働の協同組合」法制化運動を促進し、協同労働の協同組合への理解・賛同を広げ、発展させることを目指し、学習会や交流視察等に取り組んできました。

そんな中、2020年12月4日(金)第203回臨時国会において、与野党・全会派の賛同を持って、念願であった「労働者協同組合法」が成立しました。これを受けて、2021年

度から2022年度においては、より多くの人に対して「労働者協同組合法」を理解してもらう活動を実施してきました。そして2022年10月1日より法施行が開始となる事を受け、千葉県においても説明会等が開催されました。

とりわけ、千葉県においては「ワーカーズコープちば」が、この法律に基づき法人移行手続きを行い、特別法人として生まれ変わりました。法施行が開始した以降各地でも労働者協同組合の設立する動きがあり、さまざまな分野において労働者協同組合として新規設立あるいは組織変更をする団体が生まれています。しかしながら、まだまだ登録された団体数が少ないのが現状です。

そのことから、引き続き様々な方法で周知活動を行いながら、労福協としっかりと連携を図りながら協働労働の協同ネットワークちばで出来ることを模索しながら活動していくこととします。

1) 運営委員会：2回開催（運営委員 宮崎常務理事）

③ 「消費者行政充実ネットちば」

2019年度には、消費者に最も身近にある、地方自治体における消費者行政の充実に向けて①全自治体での消費者生活相談窓口の設置や相談員の処遇改善、②消費者が頼れる消費者行政の確立、消費者教育の推進に向け取り組むとともに、「リコールキャンペーン」を実施する等、積極的に取り組みを展開してきましたが、新型コロナウイルス感染症以降、具体的な活動が出来ていない状況です。

④ 「フードバンクちば」

「フードバンクちば」は、ワーカーズコープちばが運営主体となり2012年5月から活動をスタートして12年目の活動に取り組んできました。

2023年6月には、千葉県知事がフードバンクちばに視察に訪れ、千葉県からの更なる支援について検討していく発言がされました。このように、フードバンクの重要性についての認識が高まる中、千葉県労福協は、今年度においても協力団体として取り組みを支援するとともに、各種会議等においてフードドライブの取り組みの周知と共に、食品の回収の呼びかけを行いながら、一方では野田市生活困窮者自立支援事業での生活困窮者支援において「フードバンクちば」から支援を頂く等、双方連携のもとに取り組んできました。

また、今年度はフードドライブの新たな取り組みとして、毎年労福協が開催している「千葉県勤労者チャリティゴルフ大会」において、参加者に食品提供を呼びかけ、結果82品の食品提供をいただき、フードバンクへ寄贈することが出来ました。

⑤ 社会福祉法人「千葉いのちの電話」

「千葉いのちの電話」は、1989年10月1日の開局から、昨年35周年を迎えました。この間、電話相談、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」、対面相談、自死遺族支援事業、インターネット相談等を行ってきました。とりわけここ数年インターネットやSNSが普及してきた今、相談窓口も形を変えつつあります。それに対応しつつ、2022年から茨城いのちの電話でSNS相談プロジェクトを立ち上げ、千葉いのちの電話においても2024年10月よりSNS相談(LINE相談)のトライアル運用を開始しました。千葉県内の昨年度の自殺者数は975人と依然として深刻な状況が続いています。このことから引き続きの対策が急務であり「千葉いのちの電話」の事業を重要な取り組みと位置づけ、千葉県労福協は、評議員会に参加するとともに、理事会等で現状等を報告してきました。

1) 評議員会：年3回開催（評議員：宮崎常務理事）

⑥ 「貧困問題を考える懇談会」(千葉県弁護士会主催)

「貧困問題を考える懇談会」は、生活保護問題、奨学金問題等の貧困問題に対する学習や意見交換、各団体の取り組み報告等を行ってきました。一昨年からコロナ禍の状況を鑑み、実開催と併行してオンラインを利用した、いわゆるハイブリット方式も取り入れながら懇談会の開催がされました。千葉県労福協は、労働者の雇用問題やちばライフサポートセンターでの取り組み、さらに全国で取り組んでいる奨学金制度の改善等を中心に懇談会に臨んできました。貧困問題の実態や支援状況、課題等の共通認識がはかられ、多くの団体等とのネットワークが広がってきています。

- 1) 懇談会：年4回程度開催
- 2) その他、懇談会参加の弁護士等との連携した取り組み

⑦ NPO法人「消費者市民サポートちば」

2016年11月に適格消費者団体を目指し設立された「NPO法人消費者市民サポートちば」には、千葉県労福協から役員(監事)を派遣し、一緒になって取り組みを進めてきました。

2019年6月に千葉県内初の「適格消費者団体」としての認定を受け、不当な事業者に対し「差止請求」訴訟ができるようになり、より活動の幅が拡張しました。

- 1) 第9回通常総会 2025年6月8日(日)千葉県弁護士会館
- 2) 理事会：2ヶ月に1回開催(7/3~5/7 WEB開催および実開催)
- 3) 自治体等、各団体からの受託事業の実施

Ⅲ. その他事業

1. 構成団体との連携による労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進

<構成団体の取り組み>

<連合千葉>

【2026春季生活闘争の取り組み】

2026春季生活闘争は、「こだわろう!くらしの向上」、「ひろげよう!仲間の輪」をスローガンに、「総合生活改善闘争」の位置づけのもと、国民生活の維持・向上、社会・経済の構造的な問題解決をはかる「けん引役」を果たす闘争として取り組みを展開しています。

「未来づくり春闘」もと、賃金・経済・物価を安定した上昇軌道に乗せることと、「人への投資」を通じた持続的成長をめざしており、2026年は実質賃金を1%上昇軌道に乗せる正念場となります。賃上げは進んだものの、生活向上の実感は乏しく消費も低迷しており、中小企業などにも賃上げを広げ、「賃上げノルム」を確立することが経済の好循環実現の鍵となります。

3月2日時点における要求提出済み組合は3,584組合、うち月例賃金改善(定昇維持含む)を要求した組合は2,618組合となり、6%以上の要求を提出した単組数の比率は63.1%、5%以上6%未満の要求を提出した単組数の比率は26.3%であり、連合方針にそった要求提出が進んでいます。また、平均賃金方式で賃金引き上げを要求した2,508組合(昨年同時期比431組合減)の平均(規模計)は19,506円・5.94%(加重平均)で(同262円増・0.15ポイント減)、300人未満の中小組合(1,525組合)は18,548円・6.64%と昨年を上回り(同881円増・0.07ポイント増)、規模計の上げ幅をも上回りました。また、有期・短時間・契約等労働者の賃上げ要求率は、7.60%(時給・加重平均)であったことから、雇用形態間格差是正への取り組みの結果と受け止めております。

要求趣旨に沿った回答の引き出しに向けて、連合・構成組織・地域協議会との一層の連携を強め、賃上げの機運醸成と積極的な情報発信などに取り組んでいくこととし、この後に続く、最低賃金の取り組みを含めて、社会全体へ波及し定着・深化に繋げていく考えです。

【組織強化に向けた取り組み】

連合は、すべての働く者、生活者の立場で、働くということに最大の価値を見出し、社会全体へうねりを生み出す運動として、世論喚起や行政等へ政策・制度要求と提言に取り組んでいます。連合千葉は、世論喚起・社会的波及を目的に時宜のテーマに応じて街宣行動やメーデー等の諸行事を展開しています。4月29日（水）に第97回千葉県中央メーデーを千葉ポートパーク円形広場において、一般の組合員およびそのご家族等を含めて約6,000人規模で開催することができました。この他、4つの地域協議会主催による地域メーデーも開催され、県内で働く仲間が結集するメーデーが持つ発信力を活かし、県全体へ「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」の継承・波及につながったものと考えております。

組合員一人ひとりから共感を得られる運動を推進し、社会から「信頼される労働者の代表的組織」として、その発信力を社会全体に波及させるためにどうあるべきか、連合千葉・構成組織・地域協議会、さらには、福祉団体等との連携のうえ、検討を進めてまいります。

【福祉団体との連携】

連合千葉は、千葉県労働者福祉協議会をはじめとした関係諸団体と連携をはかり労働者自主福祉運動の推進に取り組んできました。具体的には、各種事業への参画が挙げられますが、労働運動を支える人材育成は急務であるとの認識のもと、千葉県労働者福祉協議会が主催する「労働者自主福祉運動シンポジウム」への参画等、今の労働運動の礎である歴史や運動の理念を学ぶ機会として連携し取り組みました。

連合が掲げる「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」は、誰一人取り残されることのない社会の実現であり、それには福祉団体とのさらなる連携が求められます。

<中央ろうきん千葉県本部>

『第8期中期経営計画』（2025-2027年度）は、「運動・事業の持続的な成長に向けて、金庫基盤を再構築する3年」と位置づけ、取り組むべき課題を「職域を中心とした利用者の増加」に絞り、事業活動をスタートしました。

以下に、中計初年度にあたる2025年度（2025年12月末時点）の概要を報告いたします。

《重点取り組み1》中央ろうきんらしい金融サービスを通じた生涯取引の推進

- 2025年4月より営業店ごとの特性・状況に応じて13店舗（2025年12月末時点）に「IP（内勤営業担当者）」を新たに配置し、非対面ツールを活用した相談・提案活動や継続的な顧客フォローなどに取り組みました。
- 対面を基本とした相談・提案活動の強化に向けて、営業店内部部門から渉外部門への配置転換を各営業店の実態に応じて進めました。
- 2025年4月よりコンシェルジュ運用を全店で開始し、営業店内部部門の職員はコンシェルジュとして、効率的な事務手続きのご案内や金融面での様々な課題解決のサポートに取り組みました。
- フロントシフトを通じた相談・提案活動の強化を進めた結果、相談・提案訪問回数は増加し、利用者数および「営業推進計画」の計数目標に対する実績は堅調に推移しました。
- これまで利用が進みにくかったパート・有期雇用契約等組合員、組合員の家族、退職・高齢者層等のニーズに応えるために、各種商品・サービスを拡充しました。
- 2025年4月より、コンタクトセンターの相談項目に「有担保ローン」を追加しました。また、2026年1月・3月（予定）に「R-Portal」の機能を拡充するなど、取引チャネルの強化を進めました。
- 職域での情報提供活動に加えて、SNS（LINE、YouTube、Instagram）やWeb広告などによるダイレクトマーケティングを強化し、認知度向上や利用促進を図りました。

《重点取り組み2》 会員・推進機構との連携による労金運動の発展・継承

(1) 会員・推進機構との連携による職域での取り組み

- 労金運動の発展・継承および推進機構の活性化に向けて、「2025年度〈会員・推進機構・ろうきん〉の協働取り組み」を推進しました。
- 利用が進んでいない会員に対する利用促進や、新規結成・未加入の労働組合・団体の新規加入の取り組みを継続・強化しました。【利用会員割合(12月末):51.9%(前年同期比+3.1%)、新規加入会員数:99会員】
- 勤労者の福利厚生増進に向けて、2025年4月より「ろうきん 職場つみたて NISA」の取扱いを開始し、導入・利用促進に取り組みました。【職場つみたて NISA 覚書締結事業主数(12月末):76事業主】
- 組合員・勤労者の金融リテラシー向上に向けて、会員・会員企業と連携し、セミナーを積極的に開催しました。【セミナー実施状況(12月末):6,529回開催、132,407名参加(前年同期比+438回、+10,389名)】

(2) 生協や関係団体等との連携による地域での取り組み

- 退職・高齢者層の継続利用と地域コミュニティづくりに向けて、「中央ろうきん友の会」との統一取り組みの継続・拡大や、会員または会員企業の退職者会と連携した取り組みを進めました。
- 中学校、高校、大学および特別支援学校などにおいて、「成年年齢引下げ」「新学習指導要領」「家計管理・消費者被害防止」などをテーマとする金融教育を積極的に実施しました。【金融教育に係るセミナー実施状況(12月末):54回開催、3,325名参加(前年同期比+12回、+673名)】
- 「中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”」を通じて、地域社会の課題解決に取り組む NPO 法人などに対して助成を行いました。【2025年度助成団体数・助成金額:26団体、1,421万円】

《重点取り組み3》 持続的成長を支える経営基盤の構築

(1) 人材の育成・活躍と組織風土の醸成

- 庫内認定制度「ろうきんファイナンシャルプランナー(RFP)」を新設し、職員の相談・提案力の向上に取り組みました。【上期受講者数:1級30人、下期受講者数:1級30人、2級410名、3級436名】
- 2025年度より「中央労働金庫ウェルビーイング取組方針」を新たに策定し、多様な人材が健康で生き生きと働くことができる職場環境の実現に向けて各種取り組みを進めました。

(2) 次世代型店舗におけるデジタル化の推進

- 2025年4月より AI 審査、2025年8月より勘定系データ連携タブレットを導入し、顧客利便性の向上および営業店業務の効率化を進めました。
- 「コンタクトセンターによる遠隔相談スキーム」を職員数の少ない11店舗に拡大し、営業店ごとの職員数や繁忙度合いに関わらず一定の水準でサービス提供できる体制を構築しました。

(3) 内部管理態勢の強化

- 業容・収益・リスク・自己資本のバランスのとれた業務運営により、持続的・安定的な収益確保と成果還元に努めました。【自己資本比率(12月末):10.73%】
- 自然災害やサイバーセキュリティインシデントなどの危機に備え、業務継続マネジメント会議を開催する等、平時から組織横断的な業務継続マネジメント活動に取り組み、危機管理態勢を強化しました。

<こくみん共済 coop 千葉推進本部>

2025年度は、「中期経営政策 2022-25 ～変革と創造～」の最終年度として、社会環境や生活者ニーズが大きく変化する中においても、組合員・生活者の皆さまに変わらない安心を提供するため、「お役立ち発想」と「共創活動」を軸に、人とデジタルの融合による「新しいたすけあい」の創造・実践に邁進しました。

特に、公式アプリやマイページなどのデジタル基盤のさらなる活用・浸透を図るとともに、「こくみん Life サポート」をはじめとした取り組みを通じて、組合員・生活者の暮らしをトータルに支える新たな体験価値の創出に取り組みました。

また、2025年は国連が定める国際協同組合年であり、生活協同組合の一員として、組合員・生活者との連帯を一層深め、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを展開しました。

【職域】

1. 労福協をはじめ、連合、産業別労働組合、労働金庫、地域生協、こくみん共済 coop 指定整備工場などの関係諸団体と連携強化をはかるとともに、未組織労働者を含むすべての労働者福祉の拡充に向け、共済推進活動を展開し共済利用団体の拡大を図りました。
2. 地区運営組織活動の中心的な担い手である地区役員の理解度向上や地区運営組織・構成団体の活動促進および活動の継承を目的に、「常任委員研修会」を開催しました。また、各地区常任委員会を年4回実施し、常任委員との関係強化や意思統一をはかりました。
3. 「労済運動体験学習」および「3.11 統一行動」を実施し、生活協同組合や労済運動の歴史、駅頭チラシ配布、オンライン学習会等を通して、備えの重要性と更なる共済利用の拡大を参加の各協力団体、組合員・生活者に訴求しました。

【地域】

1. 共済ショップに来店されたお客さまには「お役立ち」を意識した親切丁寧な対応と、保障の不足を補うプラスワン加入をおすすめするなど、お客さまへの寄り添いを大切にしたい推進活動を実施しました。
2. 地区共済会役員会を開催して共済会活動の活性化に努め、チラシ配布等の共済会活動に取り組みました。

【教育文化活動】

1. 子どもたちの体力向上を応援するために「こどもの成長応援プロジェクト」として、こくみん共済「こども保障タイプ」のご加入1件につき、1本のなわとび・長なわを児童館や小学校に寄贈する取り組みを展開しました。
2. 未来ある子どもたちを交通事故から守りたいという思いから「7才の交通安全プロジェクト」として、マイカー共済のお見積もり1件につき1本の横断旗を児童館や小学校に寄贈する取り組みを協力団体の皆さまと協同展開しました。
3. 第52回小学生作品コンクールを開催し、県内のべ16校から1,176点の作品応募がありました。厳正な審査の結果、千葉県コンクールにおける入賞作品（金・銀・銅）96点を決定し表彰式で賞状を授与しました。金賞作品は中央コンクールに出品し、千葉県内から最優秀賞に版画の部1点、優秀賞に作文の部3点、版画の部3点が選出されました。また、表彰式終了後、桔梗ブラザーズによるジャグリングショーを開催し、受賞者ならびにそのご家族に楽しくご参加いただきました。

<千葉県生協連>

【2025年度活動の特徴】

2025年度は物価高騰の影響が大きく生活を圧迫しました。特に「令和の米騒動」と言わ

れる米不足、米の価格高騰や品不足は、組合員の生活に大きな影を落としました。日本の農業政策の課題が露わとなり、産直活動、農業支援に取り組み生協としても看過できない状況です。品不足や価格高騰は現在も続いており、今後の動向が気になるところです。そのような中、「2025 国際協同組合同年」がスタートし国内外で活動が広がりました。千葉県生協連や会員生協でも、県生協連内の連携促進から対外的連携へ、また社会的課題の解決のための連携や情報共有に取り組み、協同組合の認知度向上につながりました。

【2025 年度重点課題】

- 1 **会員生協とともに安心して暮らし続けられる社会を実現するため SDGs 達成をめざして社会的課題の解決に取り組みました。**
 - ・「令和 7 年度消費生活協同組合役員研修会」において「SDGs」をテーマにポスト SDGs に向けた生協の活動、その意義について学習しました。
 - ・千葉市と会員生協、淑徳大学の連携企画として千葉市内 4 会場で「子供を事故から守ろう！パパママトークカフェ」を開催しました。家庭内などで発生する子どもの事故をどのように防ぐか、ワークショップも交えて学びました。
 - ・「第 46 回九都県市合同防災訓練」（会場：館山市）に参加協力しました。また毎月、生協連の 5 会員生協と MCA 無線通信訓練を行いました。
- 2 **誰ひとり取り残されない地域社会づくりのため、自治体や諸団体との連携を大切にしながら協同組合としての役割を発揮しました。**
 - ・「千葉県環境生活部と千葉県生協連役員との懇談会」を開催しました。会員生協の取り組み状況を紹介し意見交換を行いました。
 - ・「生協広報担当者・消費者行政連絡会」を開催しました。会員生協の活動や広報事例を紹介し、県の消費者被害防止のためのお知らせを各会員生協の広報媒体に掲載しました。
 - ・「千葉県協同組合提携推進協議会」に参画しました。農協、漁協、森林組合と連携し、県民に向けて協同組合の価値をアピールすることを目的に「千葉県協同組合提携推進マッチデー JEF 市原・千葉冠協賛試合」を開催しました。
- 3 **消費者市民社会の実現にむけ、地域で活動する消費者団体に協力、支援しました。**
 - ・悪質事業者の不当表示などに対し、是正を求める活動をおこなう適格消費者団体「特定非営利活動法人消費者市民サポートちば」の事務局を担い支援しました。申し入れ活動の他地域での学習、啓発活動も実施しました。
 - ・安全、安心で持続可能な消費者市民社会を構築するため「消費者団体千葉県連絡会」の事務局として、幹事団体とともに、くらしの様々な課題について学習や交流、提言を行いました。
- 4 **地域の中での生協の取り組みに理解を深めていただけるよう、様々な場面、年代、団体に向けた情報発信に努めました。**
 - ・千葉大学に開講した日本協同組合連携機構（JCA）が主催する「国際協同組合同年記念」千葉大学公開寄付講座の開催に協力しました。協同組合の理念や活動を紹介することを目的にしており、会員の地域生協に講師を依頼し進めました。
 - ・千葉県生協連および会員生協の活動を紹介する冊子「ちばの生協」をリニューアルしました。
- 5 **日本生協連中央地連管内の都県連との交流や情報交換をすすめました。**
 - ・東京都、埼玉県、神奈川県各都県連とともに 4 都県生協連事務局間の情報交換を継続し課題の共有を行うなど連携を深めました。
 - ・日本生協連、中央地連の会議に参加し、他県の生協、生協連との交流を深めました。